

沖縄平和行進で感じたこと

関東地方横浜支部

書記 野沢文香

5月11日から14日まで沖縄平和行進に初めて参加させていただきました。

ひめゆりの塔では戦争中の過酷な現状を目の当りし胸が苦しくなりました。ひめゆりの生徒さん達は陸軍病院に動員され、食事や睡眠もできず手当に追われる日々を過ごし亡くなっていったことを知りました。実際軍事病院に動員された方のお話をモニターで拝見し、ウジの湧いたところを直で取り除き、負傷者からは罵倒を浴びせられ、環境の酷さが伝わりました。

今、現状何不自由なく生活している私にはこのような過去があったことを胸に刻み子供達に伝えていかなければならないと思いました。

沖縄の地では未だ家族のもとに遺骨が戻ってない人、不発弾も埋まったままの状態です。ボランティアで遺骨の採骨を行っていると聞きました。政府が軍事強化する前に、もっと遺骨の採骨や不発弾処理を先に行うべきだと感じました。

戦争はあってはならない、数多くの尊い命が奪われ、命どう宝！まさにその言葉だと痛感しました。

このような経験をさせていただきとても感謝しております。

雨に降られることなく、ケガや事故もなく無事終えることができたのも、沖縄地本の皆様、青年部の皆様、レンジャー隊のサポートがあったからこそだと思います。改めてお礼申し上げます。